

「思い描こう!私の未来!進もう!理工系女子への道!」を開催しました

7月27日(日)、郡山市が実施する理工系女子支援事業として、郡山市在住の小・中学生女子とその保護者を対象にした理工系プログラムの体験教室を開催いたしました。第1部では、「先輩リケジョに聞いてみよう!〜わたしが理工系分野を選択したワケ」と題した講話を、第2部では、「特殊セメントを用いてオリジナルキャラクターを作ってみよう!」などの4つのプログラムを実施。工学を楽しむ小・中学生、保護者の姿が多く見られ、大盛況となりました。



「完全自立型移動式水洗トイレ」の完成プレス披露会が行われました

9月11日(木)、「完全自立型移動式水洗トイレ」の完成プレス披露会が工学部キャンパスで行われました。土木工学科中野和典教授による日本大学工学部発ベンチャー第1号の株式会社e6s(えしっくす:横浜市)が開発した「インフラに依存しない自立型トイレ洗浄水循環システム(e6sシステム)」を装備するトイレカーで、断水や停電時でも使える水洗トイレのシステムです。神奈川トヨタ自動車株式会社と共同で車載式を開発し、モバイルトイレとして新たに完成しました。



『復興と復活の能舞台―福島県葛尾村―』が2025年グッドデザイン賞を受賞しました

この度、建築学科浦部智義教授と建築計画研究室の学生が能楽空間の企画・計画・設計とその運営に携わった『復興と復活の能舞台―福島県葛尾村―』が、2025年グッドデザイン賞を受賞。村の歴史的資源ともいえる約160年前の能楽空間を復活させることで、復興と地域の創生と活性化を図ったもので、浦部教授と研究室の学生が大いに活躍した成果です。



防災士と防災研修専門家を招いて避難訓練を実施しました

10月24日(金)、学生及び教職員約250名が参加し、大規模な地震や火災などの災害に備えた避難訓練を実施。今回の訓練では、防災士でありイラストレーターでもある物江麻衣子さんと、防災研修専門家の桐谷範彦さんをお招きし、訓練後にワークショップを行いました。災害時に適切な行動を取るための知識やスキルについて、より実践的に学ぶ機会となりました。



ふるさと納税を活用した大学応援「郡山市学びと絆寄附金」について

この度、郡山市へのふるさと納税を活用した「郡山市学びと絆寄附金」が設置され、11月1日(土)より日本大学工学部を支援先としてご指定いただくことで、寄附額の一部が本学部の教育研究活動、学生の経済支援や生活環境の整備等に対して補助金として交付されます。詳しくは庶務課(024-956-8727)までお問い合わせください。

NPO法人「たなぐら里山板橋キビタキの森」と地域づくり活動の連携協力に関する覚書を交わしました

この度、本学部は棚倉町板橋の民有林の里山保全活動を続けているNPO法人「たなぐら里山板橋キビタキの森」と地域づくり活動の連携協力に関する覚書を交わしました。11月2日(日)には、現地で行われた、初めての「収穫祭」に土木工学科の岩城一郎教授ら教授陣や各研究室の学生たちも参加。本格的な里山づくりを展開していくことを誓い合いました。



一般社団法人「天草1000年の人と土の営み」との連携に関する協定を締結しました

この度、本学部は熊本県の一般社団法人「天草1000年の人と土の営み」と相互のもつ資源やネットワーク等を活用し、連携することにより、ロハス工学と他学間の融合による健康で持続可能な地域づくりの推進に寄与するために、連携に関する協定を締結しました。これまで行っていた学生の現場教育及びインターンシップに加え、地域づくり活動に対する支援や調査・研究等を推進して参ります。



寄付のお礼

本学部では「学生団体指定課外活動支援寄付制度」等を設け、ご寄付を受け入れております。ご寄付をいただきました各企業の皆さまにこの場を借りて改めて御礼申し上げます。

ご寄付いただいた企業各社様 (敬称略/掲載許可企業のみ)	寄付内容
フルテック(株)	自動ドア装置2台
(株)七十七銀行 (株)尚楠	インパクトドライバーセット
(株)ホープ	ラグビー部への支援

※令和7年7月1日(火)～10月31日(金)受贈分



好きを究めて、未来を創る

Graduate School of Engineering

大学院進学のススめ

Contents

大学院特集

大学院修了生クローズアップ	1-3
就職内定者が語る! 大学院の魅力	4
大学院進学の実態、そしてメリットは?!	5
大学院の支援制度	6
令和9年度大学院入試	6

第75回北桜祭「創造・想像の桜を満開に」	7-8
----------------------	-----

『24時間テレビ48』工学部キャンパスを会場に様々なイベントが開催!	9
研究シーズマッチング交流会	10

学生の活躍	11-12
-------	-------

『まなパ!いいぞ』課外講座における地域連携課題解決型授業	13-14
------------------------------	-------

工学部だより	15
--------	----

Graduate School of Engineering

大学院進学のススめ

大学院進学か就職か、キャリア選択に悩む学部生の方も多いことでしょう。

大学院進学は専門性を高め、将来の選択肢を広げる一つの道です。ここでは、大学院を選び、自分の可能性を追求した先輩たちの“今”を紹介します。



やりがいを感じる日々。

社会に貢献できる喜びと

身についた能力は裏切らない。

大学院での経験と

中日本高速道路株式会社(NEXCO中日本)勤務

平田 健介さん

2024年度土木工学専攻博士前期課程修了/栃木県・宇都宮北高校出身

将来を見据え、専門知識を深めるために

幼少の頃、電車やクルマが好きで、まちづくりゲームに夢中になったこともあり、将来は道路や橋、ダムなどのインフラに関わる土木の仕事に就きたいと思い、工学部を選びました。大学院への進学を決めたのは、3年次の10月頃。インターンに参加した際に

他大学の院生と話す機会があり、自分よりも豊富な知識を持っていると感じたのです。同時に、希望した交通流解析学研究室への配属が決まり、自分のやりたい研究を続けたい、専門分野の知識をもっと深めたい、そんな思いから大学院進学を決意しました。

学会発表や研究をやり遂げた経験が大きな財産になる

早期に大学院進学を決めたことで、学部生ながら学会で発表する機会をいただきました。大学院進学後も数多くの学会発表の機会がありましたが、その業界の最前線で活躍している方と話をしたり、意見交換できたのは貴重な経験でした。加えて、プレゼンテーション能力や資料作成など、社会人になっても役立つスキルが身についたことも収穫です。また、諦めずに継続することの大切さも学びました。一つの研究を最後までやり遂げた経験は、自分にとって大きな財産になりました。



災害時の交通現象を解析し、減災につながるモデルの構築

大学院では、交通流ベクトルを用いた豪雨時の交通異常の検出手法について研究しました。災害時特有の車両挙動を交通異常と定義し、迅速に検出することで、被災箇所をいち早く発見し、減災に貢献できると考えたのです。私自身も体験した、2019年10月に福島県に襲来した台風19号を分析対象としました。着目したのは、車両のUターンです。普段なかなか見られない挙動のため、災害が起きている場所だと推定できます。この挙動センシングデータを用いて、一般道も含めた道路ネットワーク全体の災害時

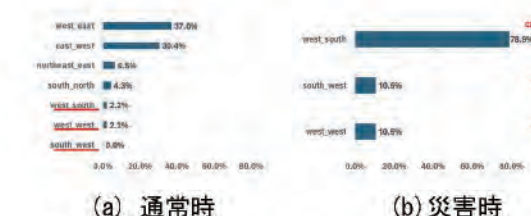
の交通異常をリアルタイムに検知する手法を検討しました。最初に、過去の災害時の交通現象を解析し、その特徴量を抽出します。特徴量を学習するモデルを構築し、他の災害に適用することで、モデル自体のロバスト性を検証しました。最後に広域エリアに適用するためにモデルを改良。検証した結果、既存の手法よりも高精度にUターンを検出できることを示しました。社会実装につながる技術開発に携わり、大学院ならではの研究の醍醐味を味わいました。



(a) 通常時 (b) 災害時

図4 交通異常のGPS状態を示す

1st, 2ndは交通流ベクトル上位2つを表現



(a) 通常時

(b) 災害時

図5 交通異常を対象に全交通量に占める各交通ベクトルの割合 通常時(左)には、通常時0、災害時に出現(1台以上)したベクトルのラベルに赤の下線を付与。災害時(右)には、Case1、Case2の検出結果を示す。条件に該当した場合、丸(O)もしくは三角(Δ)を記載。



視野を広げて学ぶことが、将来の道にもつながる

就職先は交通分野の研究やその知識を活かせる会社になりたいと思い、高速道路会社を志望しました。この会社は、自動車産業が集中する東海地方をはじめとして広い地域で事業を展開していることが魅力でした。また、道路インフラ系の企業の中であって、自動運転など先進的な研究開発に参画している点にも興味があり

ました。ここなら将来、いろいろな挑戦ができると思ったことが、決め手になりました。自動運転は自分の研究とは別の視点になりますが、研究室でも話題になることがあり、興味を持って調べたりしていました。大学院では自由に使える時間があるので、視野を広げることができるのもメリットの一つです。

安全・安心な道路空間と持続可能な社会の構築を目指して

現在、高速道路の4車線化工事に関わる仕事をしています。2車線しかない道路を4車線にするため、トンネルを新たに掘るなど大規模な建設現場で、私は工事を円滑に進めるための調整業務を担当しています。入社してすぐにこうした大きな仕事に関われるのはなかなかできない経験ですし、大変やりがいを感じています。先日も、私が関わった道路が開通した際、新聞で取りあげられているのを見て、地域の方々に喜んでいただけて良かったと思いました。これからも社会の流れを汲み取り、時代に即して変化する高速道路を造っていきたいと思っています。特に、自動運転の普及に対応した高速道路づくりに貢献したいです。



専門分野の知識を深められるだけでなく、好きなこと、やりたいことと思う存分取り組めるのが大学院の魅力でもあります。それはきっと、自分自身を成長させるための有意義な時間になるでしょう。

中日本高速道路株式会社(NEXCO中日本) 人事担当者からのメッセージ

コミュニケーション能力と経験値の高さが社会で活きる



中日本高速道路株式会社
(NEXCO中日本)

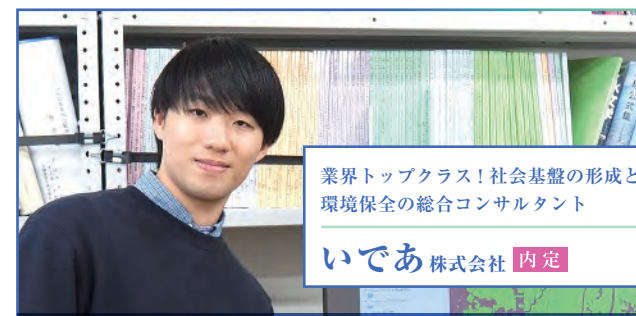
総務本部 人事部
人事課係長

石川 稜氏

高速道路は、いわゆる日本の大動脈と呼ばれる交通網であり、地域を結び、人やモノの流れを支え、経済や日々の暮らしに貢献しています。高速道路には橋梁やトンネルなどの構造物があり、これらを造り、維持・管理することが私たちの仕事です。現在約60%の道路が開通後30年以上経過しているNEXCO中日本管内では、高速道路リニューアルプロジェクトを進めています。こうした大規模なプロジェクトに、最前線の現場管理から、事業全体をマネジメントする統括的な立場まで、幅広く活躍できる人材を必要としています。様々な関係者とやり取りしながら事業を進めるため、特に相手の思いを理解して自分の思いを相手に伝えるコミュニケーション能力と物事を最後までやり遂げる力を重視しています。

学生のうちに何かを成し遂げた経験は、社会人生活においても大きな自信になるでしょう。企業としても良い人材を得るという点から、大学院での研究活動を通して様々な課題に直面し、一つひとつ成果を上げていくといった経験は評価するポイントになります。また、大学院では教授に直接指導を仰ぐ機会が多く、コミュニケーション能力を磨く最適な環境にあると言えます。進路選択は、人生の大きな岐路。将来のステップとして、大学院進学を視野にいれて検討するのも良いでしょう。多くの経験を積んで、社会で活躍できる人材に成長されることを期待しています。

就職内定者が語る！大学院の魅力



業界トップクラス！社会基盤の形成と環境保全の総合コンサルタント

いであ株式会社 内定

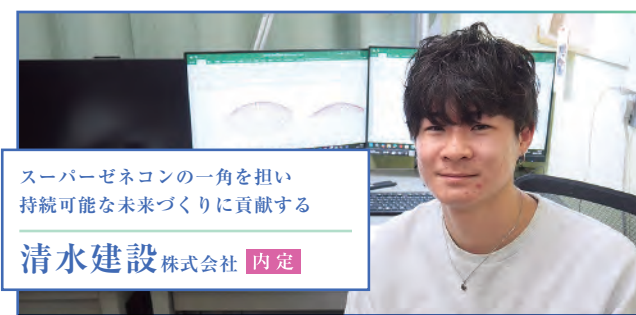
土木工学専攻 板倉 康志さん 山梨県／都留高校出身

■身についたこと、良かったこと

専門知識に加え、研究活動を通して課題解決能力が身につきました。学会等での研究成果発表ではプレゼンテーション力を養うことができました。

■内定先を選んだ理由、大学院のメリット

海外での河川調査を経験し、スケールの大きな河川の計画業務に携わりたいと考えたからです。コンサル業を目指すなら、大学院進学をオススメします。



スーパーゼネコンの一角を担い持続可能な未来づくりに貢献する

清水建設株式会社 内定

建築学専攻 荒木 賢さん 埼玉県／東京電機大学高校出身

■身についたこと、良かったこと

自分の考えや意見を発表する機会が多く、人に伝える力が向上しました。将来、一級建築士を目指すうえで、幅広い知識を身につけることもできました。

■内定先を選んだ理由、大学院のメリット

公共施設や超高層ビルまで様々な建築物を手掛けていることや木質建築を広めている点が志望の理由。プレゼン力は面接でも大きな武器になりました。



国内トップシェア製品を有する研究開発型医療機器メーカー

朝日インテック株式会社 内定

機械工学専攻 杵淵 拓飛さん 長野県／諏訪清陵高校出身

■身についたこと、良かったこと

学会に参加し新たな知見や刺激を得られ、生体流体力学に関する専門知識を深めることができました。医療系の資格を取得できたことで就職にも役立ちました。

■内定先を選んだ理由、大学院のメリット

数々の医療機器メーカーの中で、カテーテル治療機器の開発に携われることが決め手に。大学院のメリットは自己分析・業界研究に十分な時間を費やせること。



世界160以上の国と地域の医療に貢献する日本大手医療機器メーカー

テルモ株式会社 内定

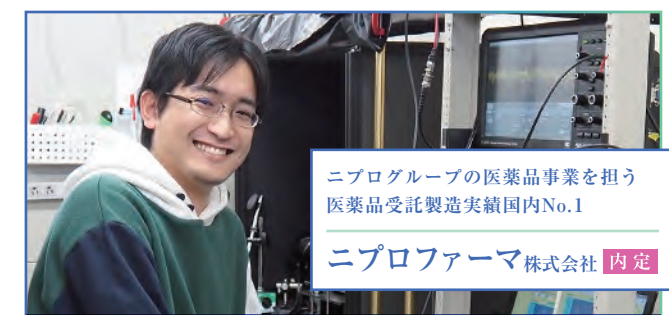
電気電子工学専攻 武田 真奈さん 福島県／日本大学東北高校出身

■身についたこと、良かったこと

デバイスの作製から問題発見、仮説立案、実験設計、データ解析までのプロセスを通して、論理的思考力と粘り強さを養うとともに、自分の強みを手に入れました。

■内定先を選んだ理由、大学院のメリット

先進技術を用いて低侵襲治療や循環器製品など世界に貢献するものづくりを目指したいと考えました。研究開発職など幅広い職種を選ぶのは大学院のメリット。



ニプログループの医薬品事業を担う医薬品受託製造実績国内No.1

ニプロファーマ株式会社 内定

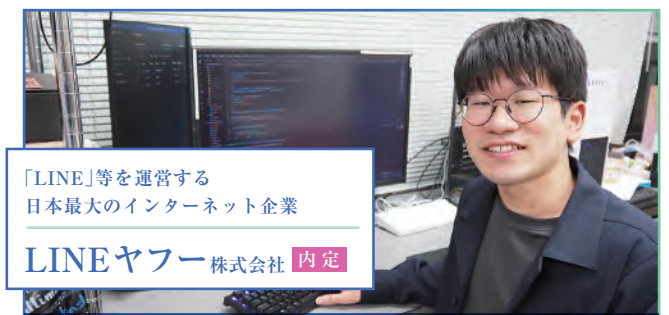
生命応用化学専攻 冨塚 由貴さん 福島県／日本大学東北高校出身

■身についたこと、良かったこと

数多くの学会発表を経験し、“伝える”プレゼンテーション力が身につきました。課題に直面した際の解決力や新しい発想で取り組む姿勢も養うことができました。

■内定先を選んだ理由、大学院のメリット

専門とする化学分野の知識を活かし製薬の品質管理を行う分析系の職種で、まさに希望に合致していたことが大きな決め手。大学院のメリットは初任給が高いこと。



「LINE」等を運営する日本最大のインターネット企業

LINEヤフー株式会社 内定

情報工学専攻 関根 寿陽さん 福島県／(私)福島高校出身

■身についたこと、良かったこと

専門知識や技術、プレゼンテーション力や表現力が身につきました。研究活動以外に新しいことにも挑戦し、多様な価値観を持つ人との交流を通して成長できました。

■内定先を選んだ理由、大学院のメリット

様々な事業領域で大規模なサービスを展開する企業であり、やりがいを感じられる。学部生よりプレゼン力や論理的思考力など就活で使える武器が増えるのがメリット。

R6年度大学院修了者アンケートに見る

大学院進学の実態、そしてメリットは?!

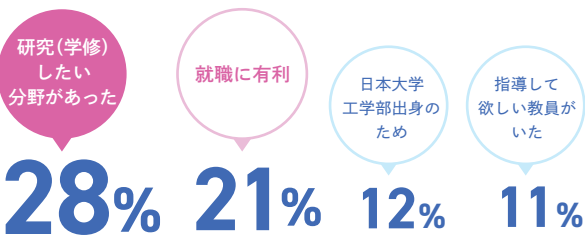
学部生の皆さんがこの先の進路選択について考えるとき、大きなポイントが「就職」か「大学院進学」かということ。日本大学大学院工学研究科に進んだ先輩たちの声から、その選択の実態を紹介します。

WEBでも公開中!



先輩たちはどんな目的で大学院に進学したの?

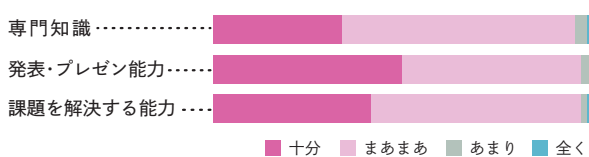
Q.本大学院を選択した理由を教えてください(複数回答可)



研究したい気持ちと就職に有利な点が約半数

どんなチカラが身につくんだろう?

Q.大学院在学中、以下のことについてどの程度身についたと思いますか

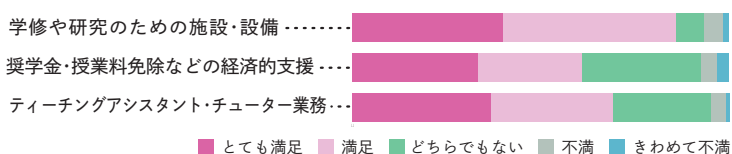


企業との共同研究 地域密着の研究 社会実装研究
国が進める学術研究 海外での研究活動

高度なロハスエンジニアを養成

経済的に不安があるのですが...

Q.本大学院の修学支援等に係る各種サービスに対する満足度について

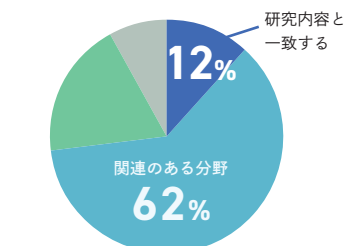


約7割がサポートに満足

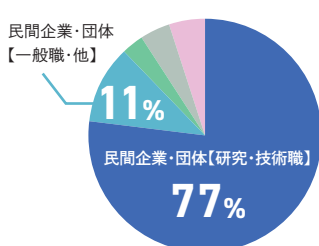
- ✓ 工学部・工学研究科からの進学は **入学金20万円免除**
- ✓ 大学院生対象の奨学金の充実
- ✓ TA、チューター、学会発表経費補助などの支援

大学院修了後の進路は?

Q.就職先の業務と大学院での研究との関連性



Q.進路先について教えてください



7割以上が研究に関連した「研究・技術職」に就職

令和6年度学校基本調査卒業後の状況調査票(文部科学省)

専門的・技術的職種従事者の割合 **78.6%** (大学院修了) **41.2%** (学部卒)

各分野の研究を活かせる就職先

三井住友建設(株)/首都高速道路(株)/積水ハウス(株)/太平洋マテリアル(株)/シャープ(株)/NTN(株)/日本電気(株)/オリンパス(株)/(株)東芝/(株)レゾナック/アクセンチュア(株)/富士通(株)/(株)デンソー ほか

修了者全体の就職率(令和6年度) **98.2%**

令和6年賃金構造基本統計調査(厚生労働省)

初任給 **28.74万円** (大学院修了) **24.83万円** (学部卒)

大手優良企業多数!

やっぱり大学院に進学して良かったですか?

Q.今後の進路に対する満足度を教えてください

「非常に満足」 **83%** 「満足」と回答

令和5年若年者雇用実態調査(厚生労働省) **29.5%** (大学院修了) **34.1%** (学部卒)
初めて就職した会社を離職した割合

Q.大学院へ進学したことは良かったですか

「良かった」 **90%**

その先の未来への確かな手がかりをつかんだということでしょう

※R6年度大学院修了者アンケートの回答より抜粋しました

支援制度を活用して充実した大学院生活を!

大学院での活動の支援

- ✓ 学会等での発表経費を **5万円まで補助**※(年1回)
※学・協会等の開催地までの往復交通費及び宿泊費
- ✓ TA※採用者に **月額5万円支給**(博士後期課程TAの場合)
※ティーチング・アシスタント
- ✓ チューター採用者に **年額約15万円給付**※
※学部生等への学修支援業務による
- ✓ 博士後期課程1~3年次生に **年額60万円の研究活動費**

大学院生対象の奨学金

※R7.11現在の内容です ※お問い合わせは学生課まで(TEL.024-956-8633)

奨学金名称	金額	対象
日本大学工学部奨学金(第1種)	年額 20万円 給付	大学院1年次生18名 学部生時の成績が評価される
日本大学大学院工学研究科奨学金	年額 20万円 給付	大学院2年次生16名 大学院1年次の成績及び研究実績が評価される
日本大学古田奨学金	年額 20万円 給付	大学院生1名 学業成績及び人物優秀な者
日本大学ロバート・F・ケネディ奨学金	年額 20万円 給付	大学院生1名 学業成績及び人物優秀な者

JASSO奨学金(第一種)の返還免除制度

大学院での研究業績によって貸与額を免除(全額/半額)
令和6年度博士前期課程申請者41名のうち、8名が全額、17名が半額免除対象。博士後期課程申請者1名が半額免除。

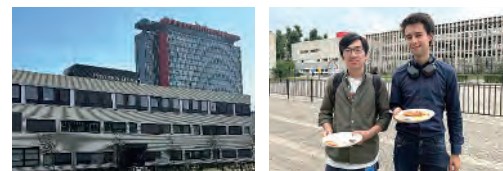
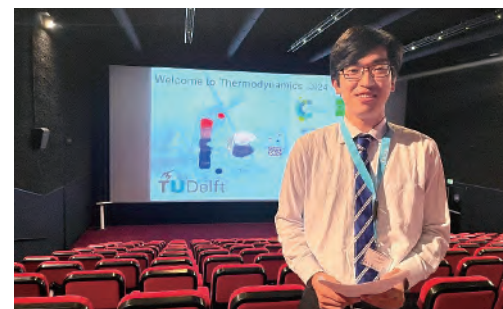
令和6年度日本大学大学院海外派遣奨学生

デルフト工科大学(オランダ)留学

海外留学を通して、人間としても研究者としても、大きな成長を遂げることができました

鈴木 祐輝さん 生命応用化学専攻博士後期課程3年/秋田県・秋田高校出身
東洋エンジニアリング株式会社 内定

2024年4月から2025年3月まで、オランダのデルフト工科大学に留学しました。オランダで最も伝統と実績のある工科大学であり、世界の工科大でも常に上位に位置する大学への留学は、自分にとって新たな挑戦でした。私の研究の基礎である化学工学と熱力学に加えて、統計力学の分野で世界的に著名なThijs J.H. Vlugt教授とMahinder Ramdin助教のもとで研究でき、今後の研究の発展に繋がります。また、研究に対して自ら答えを見つけにいく姿勢が形成されたことや英語でのコミュニケーション力が向上するなど、人間的にも研究者としても、二回りくらい成長できたと実感しています。



日本大学大学院海外派遣奨学生

海外派遣(留学)期間は1年間で**最大180万円**が支給されます。海外での研究活動を視野に入れることも可能です。

令和9年度 大学院入試(予定)

大学院は博士前期課程(2年)、博士後期課程(3年)に分かれており、学部から博士前期課程、前期課程から後期課程に進学できます。



詳細はこちら

お問い合わせ

日本大学工学部
教務課

TEL. 024-956-8623 FAX. 024-956-8888
E-mail. ceb.kyomu1@nihon-u.ac.jp

第75回 北桜祭

75th Hokuosai

創造・想像の桜を満開に

工学部恒例秋の祭典、第75回北桜祭が「創造・想像の桜を満開に」をテーマに、10月25日(土)・26日(日)に開催され2日間で約2,500人の来場者がありました。学生のみならず地域の方々にも大いに楽しんでいただき、賑やかで活気に満ちた工学部キャンパスとなりました。



サークルの展示発表



ミニオープンキャンパス



オープニング



ステージ企画



オープンキャンパス実行委員会



日大生のやってみたいを実現するプロジェクト「ロハスの畑プロジェクト」で栽培したさつまいもと、食べてフードロスを削減するとして「防災備蓄品の賞味期限切れによるフードロス削減プロジェクト」の災害備蓄米を使用した、コラボ企画「さつまいもごはん」を各日100食配布しました！



学内で自然栽培したさつまいもを冷凍やきいもにし、たっぷりの生クリームでサンドした「焼き芋サンド」を作り、郡山観光交通株式会社の協力を受け、水素を燃料とする水素燃料電池キッチンカーを使用して販売しました！



母校を訪ねる会

『母校を訪ねる会』は卒業後50年から10年刻み、5世代に渡る卒業生を対象に、毎年北桜祭と同日に開催しています。本年度は、総勢160名の皆さまにご参加いただきました。



エンディング





24時間テレビ48

工学部キャンパスを会場に様々なイベントが開催！

8月30日(土)・31日(日)、48回目を迎える日本テレビ系列『24時間テレビ』が開催され、福島メイン会場となった工学部キャンパスには延べ1万人を超える大勢の方々にご参加いただきました。『名探偵コナン』を生み出した漫画家・青山剛昌氏がデザインしたチャリTに身を包んだボランティアの学生と教職員が大活躍しました。



募金活動



ふしぎがいっぱい！ 日大工学部実験ランド



土木工学科



建築学科



機械工学科



電気電子工学科



生命応用化学科



情報工学科



総合教育

災害対策用備蓄物資の配布



工学部共催 「ふくしま・けんせつフェア」



重機女子・Kaoriさん

24時間テレビ チャリティー委員会より 感謝状が贈呈されました

昨年に続いて福島メイン会場となったことで、本学部としましてもイベントを通して来場者の方と交流ができる良い機会となりました。今後も学生・教職員一丸となって、様々な活動で地域・社会貢献活動を進めて参ります。



研究シーズ マッチング交流会 ～地域×研究×ビジネスの共創～



地域課題対策や次世代産業創出につながる産官学連携を目指して

10月22日(水)、日本大学とみずほ銀行主催の『研究シーズマッチング交流会～地域×研究×ビジネスの共創～』が、工学部キャンパスにて開催されました。このイベントは産官学連携を推進することを目的にしたもので、本学部の若手研究者6名が「新材料」「デジタル技術(AI・ロボティクス)」「環境・資源・SDGs」「感性・認知心理」のキーワードを軸に、社会や地域の課題解決に向けたシーズを紹介する講演会と交流を深めるための名刺交換会を行いました。また、健康で持続可能な生活と社会を実現するために本学部が

提唱している「ロハス工学」に関連する施設見学会も実施。開催にあたっては公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構及び公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構のご支援もあり、当日は地域課題の対策や次世代産業の創出に取り組んでいる多数の企業の方々にご参加いただきました。ビジネスのヒントや連携推進の一助となる研究者との新たな結節点につながる、大変有益な場になりました。

「ロハス工学」を実践する 最先端の研究施設を見学



ロハスの森「ホール」



ロハスのトイレ

6学科の若手研究者が研究シーズを紹介

第2部では、本学部の若手研究者から各専門分野の多様な研究シーズについて講演しました。

- 『多様なデータ融合によるモビリティ支援』土木工学科 准教授 川崎洋輔
- 『人の認知心理モデルを応用した環境デザイン手法に関する研究』建築学科 准教授 辻村壮平
- 『機械加工とLOHAS・SDGsの融合、そしてデジタルものづくりと感性』機械工学科 准教授 嶋田慶太
- 『地域の未利用資源の活用～福島県内の未利用資源から蓄電材料へ～』電気電子工学科 専任講師 江口卓弥
- 『新規機能性材料の創製』生命応用化学科 専任講師 市川司
- 『共生型ロボットとAIが拓く未来の暮らし』情報工学科 助教 米澤直見

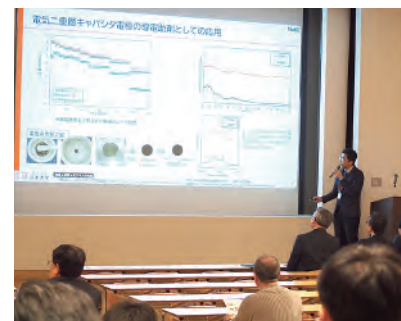


写真1：電気電子工学科 江口卓弥専任講師

電気電子工学科の江口卓弥専任講師(写真1)は廃太陽光パネルガラスやバイオマスを用いたリチウム電池への応用や福島県内資源を活用した蓄電材料の開発について紹介しました。

場所を移して行われた名刺交換会では、講演した若手研究者のほか、先端的な研究に従事する各学科の教授陣、郡山地域テクノポリス推進機構、福島イノベーション・コースト構想推進機構の方々も参加し、個別に研究の詳細について説明したり質問や相談などに応えました。有意義な情報交換の場となり、会場は活気に溢れていました。

参加された企業の方は、「今日は直接先生方からいろいろお話を聞き、具体的にどんな研究を行っているのかわかることができました」、「現在、共同研究を進めている先生以外の先生方とも何か連携していきたい」、「改めて工学部の研究と自社の製品がどうマッチングできるかを考える機会になった」という声が聞かれ、これまでにない、新たな共同研究、新規事業や技術創出、地域課題解決等につながる実りのある交流会になりました。引き続き金融機関様にサポートいただきながら、産官学連携を強固にし、地域貢献に努めて参ります。



学生の活躍

受賞や課外活動で活躍する
学生たちを紹介します。

国際会議「IEEE ICCE-TW 2025」で Presentation Awardを受賞

情報工学専攻博士前期課程1年
制御ソフトウェア研究室/上田清志教授

齋藤 瑠真さん
(岩手県/盛岡市立高校出身)

IEEE Consumer Technology Symposiumの国際会議「ICCE-TW2025」において、情報工学専攻博士前期課程1年の齋藤瑠真さんがPresentation Awardを受賞しました。齋藤さんは採録された論文『A Method for Dynamically Designing the Number of Altitudes for Layered UAV Routes』を英語で発表。多数の小型移動機が安全に航行するための最適経路構築管理方式の確立を目指した研究で、その成果が高く評価されました。



令和7年度化学系学協会東北大会でポスター賞を受賞

令和7年度化学系学協会東北大会において、下記の方が優秀ポスター賞を受賞しました。

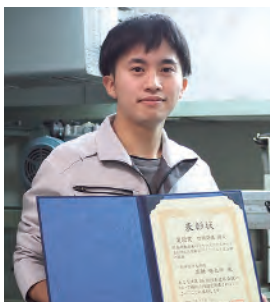
有機化学	生命応用化学専攻博士前期課程2年 有機機能分子化学研究室/庄子卓准教授 岩渕 正恭さん(岩手県/水沢高校出身) 『Synthesis and properties of 11,11'-biindeno[2,1-a]azulenylidenes』
高分子化学/ 繊維化学	生命応用化学専攻博士前期課程2年 分子遺伝学研究室/岸敦教授 佐竹 弘太郎さん(山形県/米沢興譲館高校出身) 『高浸透圧環境に適応する過程におけるグリセロールチャネル開口因子Rgc2の調節機構』
	生命応用化学専攻博士前期課程1年 糖質生命化学研究室/小林厚志教授 高木 佳明さん(群馬県/万場高校出身) 『Realizing Highly Efficient Polysaccharide Acetylation with Zinc Halide as Solubilizer and Catalyst』
	生命応用化学専攻博士前期課程2年 生体材料工学研究室/石原務教授 保戸塚 康裕さん(栃木県/真岡高校出身) 『脂質ナノ粒子(LNP)によるタンパク質の細胞内デリバリー』

第36回日本道路会議で 奨励賞を受賞

土木工学専攻博士前期課程2年
道路工学研究室/前島拓准教授

高橋 遼太郎さん
(群馬県/高崎東高校出身)

第36回日本道路会議(公益社団法人日本道路協会主催)において、土木工学専攻博士前期課程2年の高橋遼太郎さんが奨励賞を受賞しました。この会議は2年に一度開催される貴重な機会、奨励賞は35歳以下の若手研究者を対象とし発表者の1割のみが受賞できる狭き門です。高橋さんが発表した『非食用米由来バイオマスプラスチックを利用した高耐久アスファルト混合物の開発』は産官学連携による研究成果であり、将来性と発展性が期待できる研究として高く評価されました。



第29回JIA東北建築学生賞で優秀賞を受賞

建築学科3年
山口 昂輝さん
(東京都/拓殖大学第一高校出身)

第29回JIA東北建築学生賞(公益社団法人日本建築家協会東北支部主催)の公開審査において、建築学科3年の山口昂輝さんの作品『都市に蠢く』が優秀賞に輝きました。前学期の建築設計演習の授業課題の中から、学内選考により選出された作品で、山口さんは東京・赤坂の公園に建築家ザハ・ハディドを記念するミュージアムとライブラリーを配置。都市の未来に対するビジョンを明確に示し、停滞ではなく継続的な進化と変革の必要性を提案した結果、審査員から高い評価を得ました。



岩渕 正恭さん

佐竹 弘太郎さん



高木 佳明さん

保戸塚 康裕さん

第86回応用物理学会 秋季学術講演会で Poster Awardを受賞

電気電子工学専攻博士前期課程2年
光通信デバイス研究室/俵毅彦教授

濱崎 妙子さん
(福島県/福島東高校出身)

第86回応用物理学会秋季学術講演会(公益社団法人応用物理学会主催)において、電気電子工学専攻博士前期課程2年の濱崎妙子さんがPoster Awardを受賞しました。983件のポスター発表の中からPoster Awardに選ばれたのは18件のみ。発表した『時間分解スペクトルホールパーニング法による¹⁶⁷Er超微細構造のエネルギー緩和時間測定』は光量子メモリに関する研究で、将来性を高く評価されました。



第66回全日本理工科学生柔道優勝大会で 団体戦3位入賞

柔道部

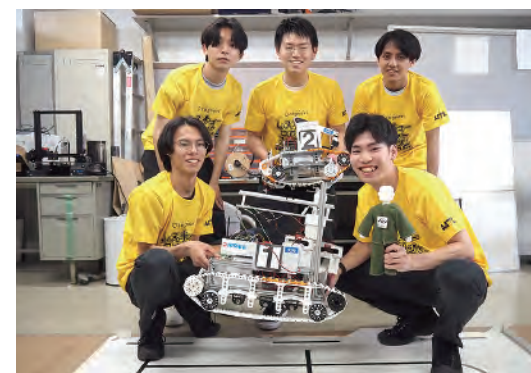
第66回全日本理工科学生柔道優勝大会において、柔道部が団体戦で見事3位入賞を果たしました。本大会は全国から理工科系大学・学部所属する学生が参加し、団体戦は5人制の18チームによる熱戦が繰り広げられました。昨年も3位の成績だったので、「今年は優勝！」を目標に大会に臨みましたが、2回戦で敗退。それでも、敗者復活戦から勝ち上がり、不屈の精神で3位まで登り詰めました。この雪辱は来年必ず果たすと、柔道部員一同、決意を新たにしています。



レスキューロボットコンテスト2025の 競技会本選に出場

機械工学モノづくり工房サステナブルロボット部会

レスキューロボットコンテスト2025の競技会予選がハイブリッドで開催され、予選動画競技枠に出場した機械工学モノづくり工房サステナブルロボット部会が1位を獲得し、見事本選への出場を決めました。初めて挑戦した昨年は、惜しくも本選出場を逃し、悔しい思いをしましたが、改良に改良を重ねたロボットで臨んだ今年、雪辱を果たすことができました。本選では機体トラブルもあり実力を発揮することはできませんでしたが、次につながる貴重な経験になりました。



第60回全日本大学ソフトボール 選手権大会(インカレ)に出場

硬式ソフトボール部

第46回 北海道・東北地区大学男子ソフトボール選手権大会で準優勝した硬式ソフトボール部が、第60回全日本大学ソフトボール選手権大会(インカレ)への出場を果たしました。インカレ出場は十数年ぶりで、3年次生にとっては引退の年に目標を達成し有終の美を飾ることができました。結果は1回戦敗退でしたが、1・2年次生にはインカレ初戦突破という新たな目標ができました。スポンサーである平晋建設株式会社様からヘルメットの寄付もいただき、大いに励みとなっています。



ツール・ド・ふくしま 「ロードレースふくしま50」部門で総合優勝

自転車部

「福島復興サイクルロードレースシリーズ『ツール・ド・ふくしま』」において、自転車部に所属する電気電子工学科4年の小林瑞宝さんが走行距離48km部門「ロードレースふくしま50」で見事総合優勝を成し遂げました。小林さんは年代別でも優勝、また17km地点トップ通過に贈られる山岳賞(KOM)も獲得。また総合優勝により、福島県知事から「福島県知事賞」を授与されるとともに、来年度の「ツール・ド・ふくしま」の招待選手にも選出されました。



電気電子工学科4年

小林 瑞宝さん
(栃木県/宇都宮北高校出身)

第73回全日本学生 剣道選手権大会に出場

剣道部

第73回東北学生剣道選手権大会で男子第9位の生命応用化学科4年 伊東悠吏さん(岩手県/花巻北高校出身)と女子第5位の生命応用化学科1年 後藤ゆうかさん(福島県/白河高校出身)が第73回全日本学生剣道選手権大会に出場しました。伊東さん、後藤さんともに全国大会では1回戦敗退となってしまいましたが、強豪相手に最後まで諦めず攻め続けたことは、次のステップアップにつながる良い経験となりました。来年は個人戦のみならず、団体での全国大会出場にも期待が高まっています。



学生 アンバサダーの 委嘱交付式

機械工学科2年

吉村 翼さん
(茨城県/多賀高校出身)

この度学生アンバサダーに任命された機械工学科2年の吉村翼さんに、広報担当の遠藤拓教授より委嘱状が交付されました。委嘱期間は令和7年9月1日から卒業・修了年月日まで。学生アンバサダーは大学と連携しながら、学生自らが教育、研究、課外活動等で得た経験をもとに、学生の視点で学部の魅力を広く情報発信するとともに、学生アンバサダーの活動を通じて、自己コミュニケーション能力や社会人としての基礎力を身につけていきます。



「まなパ」いいぞ。

日本大学
工学部は

学びパフォーマンスが高い、
つまり「まなパ」がよい大学です。



7つの価値がわかる
「まなパ」いいぞ。
サイトはこちら

地域と連携した実践的な学びが人間力を高めてくれる

本学部では地域連携力、課題探求力、コミュニケーション力を養うとともに、地域における企業や大学の役割、価値観の見識を深め産業を支える人材育成を目的に、地域連携課題解決型授業(PBL: Project Based Learning)を展開しています。これまでも、研究活動を中心に地域と連携した様々な取り組みを行ってきましたが、それを教育実践として位置づけることで、学生たちに地域課題と工学的アプローチを組み合わせた学びを提供できるものと考えています。本年度はPBLとして3つの課外講座を設けました。短期間ではありますが、

学生たちは社会課題に対してしっかりと向き合い、企業や行政からの外部講師による専門的な講義にも食らいつきながら、社会のスタンダードを学ぶ良い刺激になっています。教育成果の可視化が求められる中、課題解決能力などの養成に繋がる実践的な学びは非常に重要です。それが実際に地域貢献という社会経験につながれば、将来の大きな財産になるでしょう。来年度は半年かけて実施し、フィールドワークも取り入れるなど、プログラムの拡大・拡充を図り、より人間力の高い人材育成に努めて参ります。



機械工学科 杉浦隆次教授

工学部では、企業や自治体との強力なつながりによって、様々な取り組みが行われています。
産学官連携による、3つの「日本大学工学部 地域連携課題解決型授業(PBL)」を紹介します。

Project 01 日大工学部 × BRJ × 郡山市 次世代モビリティと郡山で挑戦する新たなまちづくり

実社会の課題と向き合い、 「まちづくり」と「ものづくり」を考える

本学部は令和5年から郡山市、BRJ株式会社との三者協定による国内初「電動キックボード導入社会実験の共同研究にかかる連携協定」を締結し、電動キックボードの機体制御、安全性検証、運用手法検証等にかかる実証データの分析を行ってきました。ここからさらに発展させた産官学連携事業として、本年度より課外講座を設けました。

10月4日(土)は、郡山市都市構想部都市政策課の高橋勇介氏とBRJ株式会社代表取締役の宮内秀明氏による次世代モビリティの社会実装に関する講演を、11月8日(土)には各チームが次世代モビリティをテーマにしたまちづくりのアイデアについてプレゼンテーションしました。12月中旬に開催される成果報告会に向け、各チームは講師の先生方からいただいた指摘やアドバイスを参考に、さらに調査研究を行い、提案内容をブラッシュアップしていきます。

※本PBLは東北工学教育協会工業教育助成事業のご支援を賜りました。



学内ファシリテーター

- 機械工学科 杉浦隆次教授／ブラムディタジョナス准教授
- 電気電子工学科 高梨宏之教授 ●土木工学科 川崎洋輔准教授
- 情報工学科 和泉勇治教授

Project 02 日大工学部 × TOYOTA × 郡山市 郡山で挑戦する水素を活用した新たなまちづくり

学生ならではの環境に配慮した 「まちづくり」へのアプローチ

トヨタ自動車株式会社は、令和3年6月以降、福島県と共同で「福島発」の水素・技術を活用した新たな未来のまちづくりに向けた活動を進めています。日大工学部×トヨタ×郡山市がコラボした課外講座では、学生の目線で水素利用の現状や課題を抽出しながら、学生ならではのアイデアから水素を活用したまちづくりの可能性を追求していきます。

10月4日(土)はトヨタ自動車株式会社CJP企画部/水素事業推進部の東谷勝氏による水素利用の現状や課題について講演いただきました。11月8日(土)には、各チームがアイデアを発表。講師の先生方からのコメントをもとに振り返りながら再度検討しました。郡山市の本田陽一氏と菊池弘明氏に講演いただいた社会実装の進め方を参考に、12月中旬に開催される成果報告会に向けさらに調査研究を行い、提案内容をブラッシュアップしていきます。

※本PBLは東北工学教育協会工業教育助成事業のご支援を賜りました。



学内ファシリテーター

- 機械工学科 杉浦隆次教授／井口史匡教授
- 電気電子工学科 江口卓弥専任講師

Project 03 日大工学部 × 防災士 防災士と考えるふくしまの未来

防災リーダーとしての資質を高め 地域を守る技術者をめざす

東日本大震災、令和元年東日本台風の被災の経験から、本学部では学生が災害時、適切に行動できる仕組みづくりと有事の際の資源活用や環境への配慮を学び、地域復興における支援の在り方について理解を深めるための講座を開設しました。専門家からの学びを通じて、防災リーダーとしての資質を高め、将来的に重要な技術者としての視点を育むことを目的としています。

8月30日(土)には防災士の物江麻衣子氏を講師に招き、「私の被災体験・災害教訓」の講演及び「すごろく」を使った被災シミュレーション、「自宅での被災」をテーマにしたグループワークを行いました。環境保全・共生共同研究センターでは、振動台に乗って震度7の揺れを体験。コインロッカーを振動台に乗せ、防振パッドを使用した時の効果も検証しました。



学内ファシリテーター

- 土木工学科 子田康弘教授／阿部慶太准教授／手塚公裕准教授／前島拓准教授／石橋寛樹専任講師／及川大輔助教
- 機械工学科 杉浦隆次教授 ●電気電子工学科 高梨宏之教授